

スタジアムに係るPFI事業者公募について

～市民に夢と感動を！ 子どもに元気と目標を！ まちに誇りとにぎわいを！～

1. 事業概要及び公募概要

都心部に人が集い、にぎわいあふれる北九州市の創出を目指し、Jリーグやラグビートップリーグなどの試合に加え、コンサートの開催や小中高生のサッカー・ラグビー大会、グラウンドゴルフ大会、子どもたちへの芝生開放など、幅広い市民利用に活用し、市民に夢と感動を提供できるスタジアムを整備するもの。

本事業は、民間のノウハウを活用することで、整備費の縮減、維持管理の効率化、より質の高い市民サービスの提供を図るため、施設の設計・建設から維持管理・運営を一事業者が一括して実施する「PFI事業」により実施する。

- ・建設予定地 北九州市小倉北区浅野三丁目
- ・施設概要 1万5千人以上収容のスタジアム（将来的に2万人以上に拡張可能）
- ・事業範囲 設計・建設と完成後15年間の維持管理・運営
- ・PFI事業 9,546,000千円（消費税5%を含む。※税率の引上げによる増額は加算する。）

2. 目指すスタジアムを実現するための公募のポイント

スポーツをはじめとするエンターテインメントを提供するとともに、自らが主役となる晴れの舞台として、あらゆる人に感動や喜びを提供し、四季を通じて街ににぎわいを生み出す施設、ものづくりの街北九州を発信する施設となることを基本理念とする。

(1) スタジアムの特徴

【その1】みんながつどい、にぎわいを生む“海ちか・街なか”スタジアム

- ①市民の誇りとなり、北九州を訪れる人・帰ってくる人が、北九州らしさを感じることができ、本市のランドマークとなる魅力的な建物とする。
- ②周辺のウォーターフロント・工場群と調和がとれ、関門海峡の雄大な景観を満喫できる眺望を最大限に活かす施設とする。
- ③コンサート、パブリックビューイング等、様々なイベントで年間を通じて活用できる施設とする。

【その2】夢と感動を生み出す“ダイナミック”スタジアム

- ①テレビ観戦では味わえない試合時の躍動感・臨場感を感じられるよう、観客席とフィールドの距離を近づけるなどの工夫を求める。
- ②夏場や雨天時でも快適に観戦でき、将来の増設にも対応できる原則屋根付きの施設とする。
- ③多様な観戦ニーズにこたえるため、テラスシートやファミリーシート等のバラエティに富んだ観戦環境の提案を求める。また、高齢者・障害者など誰もが使いやすいユニバーサルデザインを取り入れる。
- ④スポーツ観戦の質を高めるとともに、イベント時に高水準な演出を可能とするため、大型映像装置などによる、ハイレベルなメディア環境の提案を求める。

【その3】環境未来都市にふさわしい“エコ”スタジアム

- ①PFI事業者は、観客席屋根部分等への太陽光発電パネル設置を求める。
(PFI事業者は市に目的外使用料を払い、売電収入を得る。)

- ②北九州EPOにPFI選定製品の活用など、環境負荷低減につながる資材の積極的活用を求める。
- ③積極的な広報活動等により、環境に優しい公共交通による来場等、環境に配慮した管理運営を求める。

【その4】ものづくりの街北九州を発信する“街かどショールーム”

- ①地元製品の利活用を積極的に図り、観客の使用や目に触れる場所そのものを『地元製品街かどショールーム』と位置づけ、地元製品をPRする。
- ②設計・建設に当たっては、蓄積された地元技術力の活用や地元雇用の促進を求める。維持管理・運営に当たっても、地元雇用や地元調達、地元産業の育成を求める。

(2) にぎわいづくりの取り組み

- ①小倉駅新幹線口地区のエリアマネジメントについての取り組みを提案し、周辺事業者やまちづくり団体と連携・協力することを求める。
- ②フィールド、スタジアム内の諸室、コンコース等を市民や民間事業者に貸し出すことで、球技以外の利用も促進し、まちのにぎわいにつなげる。
- ③周辺地域のにぎわいやまちの活力向上に貢献する観点から、PFI事業者の自主事業として、民間施設の整備、各種イベントの誘致・実施、飲食・物販等の運営を提案することを求める。
(PFI事業者は、自主事業による収入を得、市に施設使用料を払う。)

(3) 大規模なスポーツイベント等での活用

- ①サッカーJリーグのJ1クラブライセンス取得に必要な基準を満たす施設とする。
- ②ラグビートップリーグの開催が可能な施設とする。(2019年開催のラグビーワールドカップの試合会場やキャンプ地の誘致を目指す。)
- ③その他、東京オリンピック出場国のキャンプ地、サッカー・ラグビーの国際交流試合等、様々な大規模スポーツイベント等にも対応できる施設とする。
- ④将来的には、オリンピック代表や女子サッカーの国際試合等の開催基準を満たす、観客席2万人以上への増設対応型施設とする。

(4) 安全・安心への配慮

- ①災害時に、一時的な避難場所や、救援物資の集配拠点となる防災施設として活用する。
- ②動線計画はシンプルなものとし、併せて施設の長寿命化を図る。

3. 公募の流れ

H26年	1月	実施方針(案)等公表、民間事業者向け説明会
	2月～5月	公募
	6月～7月	PFI事業者審査・選定
	9月	PFI事業者と契約締結予定(議会付議)
その後、設計を経て、H27年4月頃に工事着手、H29年Jリーグシーズン開幕に合わせ、H29年3月の供用開始を目指す。		